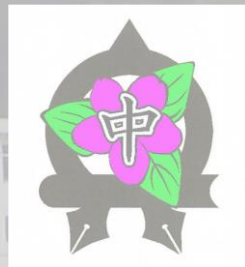


# 協働



## アメリカ合衆国での3年間で感じたアメリカ文化

校長 西村 元一

サンフランシスコに派遣されていた3年間で感じた、アメリカ文化を紹介します。

### I アメリカン・スタンダードの必要性

アメリカ合衆国は、他国からの移住により様々な文化的背景をもつ人々がつくる異文化混在の国です。以心伝心は通用せず、日本のような協力し合う文化は感じません。様々な文化的背景をもつ者が各々の価値観を主張してもまとまらないため、アメリカ国民の誰もが受け入れるスタンダードが必要です。その最たるものは、「アメリカこそナンバーワン」の精神の下、国を敬う心です。スポーツ観戦に行くと、国歌が流れる場面では誰もが例外なく起立・直立不動・脱帽で国を敬い、学校の教室には国旗が掲げられています。また、アメリカ発祥のものを大切にします。国民に人気のスポーツは、アメリカンフットボールや野球など自国発祥のもので、様々な食材をまとめて食せるハンバーガーや仕事着にも普段着にもなるジーンズなど合理的なものが考え出され、文化摩擦を越えてスタンダードになっています。合理的といえば高速道路のカープール・レーン、相乗りしている自動車だけが走れる専用車線で、渋滞緩和に向けた優れた仕組みです。異文化混在による考え方の違いを裁くスタンダードとして、法や裁判は重要で、訴訟が多いのもうなずけます。日本のように、相手の気持ちを察して穏便に済ませることは難しいようです。

### II 個の尊重と責任

アメリカは、文化の違う他者を受け入れ合わなければ社会が成り立たないので、個が尊重されます。娘のミドル・スクール(中学校)の卒業式では、卒業証書授与の際の保護者の反応が印象的でした。ヨーロッパやアジア系の生徒のときは厳粛で落ち着いた雰囲気、アフリカやメキシコ系の生徒のときは保護者席から奇声があがっていました。しかし、それをとがめる者はなく受容的です。

個の尊重の裏返しは、責任です。サンフランシスコは学校選択制で、通いたい学校を選べます。娘のミドル・スクールで昼休みにケンカがあったときの処分が、いきなり停学でした。不満はでないのかと思いましたが、「文句があるなら、他の学校へどうぞ」となるそうです。銃社会ゆえに暴力には厳しいこともあるとは思いますが、学校選択の自由の裏に校則を守る義務があり、異議を唱える者は転校です。自由に対する責任の重さを感じました。また、日本に帰国後、「小学生が下校します。地域で見守りをお願いします。」という放送に違和感を覚えました。アメリカでは子供の安全に対する責任は親にあり、地域ぐるみでという発想はあり得ません。日本の支え合いの精神を尊く感じました。

異文化に触れることで、日本の特徴や長所・短所に気付くことができ、異文化にも寛容になれると思います。国際理解教育の意義が、ここにあると思います。